

第20回紀の川市子ども・子育て会議
議事概要

日 時	令和6年7月17日（水） 10:00～11:45		
場 所	紀の川市役所 2階 市民協働スペース		
出席者	(順不同敬称略) 【委員】 金川委員（会長）、嶋田委員（副会長）、藤田委員、森岡委員、 林委員、清原委員、寺田委員、沖殿委員、大亦委員、古田委員、 真砂委員、長岡委員、藤井委員 【事務局】 山田、堀口、浅田、峰田、榎戸、山本、渡辺、瀧本、山中、南		
欠席者	4人	傍聴者	なし
議 題	(1) 紀の川市子育て支援施策の状況について ● 教育・保育事業の施策状況【資料A】 ● 地域子ども・子育て支援事業【資料B】 (2) 第3期紀の川市子ども・子育て支援事業計画について ● 事業計画策定スケジュール【資料C】 ● 子ども・子育て支援事業計画 骨子(案)【資料D】		
資 料	資料 第20回紀の川市子ども・子育て会議（資料A～C） 資料 子ども・子育て支援事業計画 骨子(案)（資料D） 資料 子ども・子育て支援事業に関する調査（小学生・中学生用）		

1. 開会

2. あいさつ

3. 新任委員紹介

4. 議事

＜議題（1）紀の川市子育て支援施策の状況のうち、教育・保育事業の施策状況について、事務局より説明＞

金川会長 資料A「教育・保育事業」の施策状況について、かなり丁寧に説明してもらった。確保量は上回っているが、個々の状況により余裕はないということであった。3ページ目が具体的な入所数と定員数である。

資料Aを確認して、質問等はあるか。

なければ、資料B「地域子ども・子育て支援事業」について事務局から説明をお願いしたい。

＜議題（１）紀の川市子育て支援施策の状況のうち、地域子ども・子育て支援事業の施策状況について、事務局より説明＞

金川会長 地域子ども・子育て支援事業の詳細について進捗状況を説明してもらった。質問等あるか。

私からいくつか質問したい。紀の川市で気になっているのが病児保育事業。ニーズが見込値よりもかなり多い。粉河保育園と名手保育園で一時的に預かるということだが、政策的に本格的な病児保育をやっていくのか。関係各所との調整が必要なので難しいと思うが、そのあたりの算段を伺いたい。

２点目が学童保育。待機が出ている。やはりニーズが高い。紀の川市では施設規模の拡大など学童保育に力を入れて取り組んでいるのは評価したい。また今後の子どもの減少やスペースの問題もあってこれからさらに増設していくというのは難しいかもしれないが、第３期計画の見込み量に関わることなので、学童保育の方向性について伺いたい。

３点目が養育支援訪問事業。これもかなりニーズがある事業と思うが、令和３年から４年度は１００件を超えていて、５年度に６３件になっているのは、いわゆる困難家庭のケースが終了したからなのか、他に要因があるのか。あとは要対協（要保護児童対策地域協議会）を含めて関係機関に繋がられているのか、具体的な状況を伺いたい。

事務局 まず病児保育事業について、現在は粉河保育園と名手保育園で実施している。病児保育を実施するにあたっては常勤の看護師の配置が必要となる。園や法人の方針等もあるので、私立保育園に依頼するのは難しい。もちろん対応してもらえれば補助は行っていく。公立保育所は再編計画があり、その再編に合わせて病児保育等も課題となってくると考えているが、今すぐに対応するのは難しい状況である。

次に学童保育について、待機児童が出ている現状である。特に、打田地区の人口が当初見込みより減少しないという状況もあり、田中小学校で学童保育のニーズが高まっている。施設の整備もすでに完了しているため、直ちに増設するのは難しい。来年度から学童保育の運営を民間委託する方向で進んでいるため、委託先の事業者と相談しながら受入体制

を整えていきたい。施設整備は難しいため、指導員の配置等で工夫しながら待機児童を減らしていきたいと考えている。

3点目の養育支援訪問事業については、今年度から制度改正があり、家事支援等は子育て世帯訪問支援事業で実施し、養育支援訪問事業は相談業務に特化することになるが、まだ国からガイドライン等が示されていない状況である。今後の事業展開が不明確な部分もあるが、引き続き実施していきたい。また、困難事例が増えているかということでは、確かに虐待件数も、母子保健班で支援している家庭数も毎年増えている。そういった中で、この事業は重要な事業であると考えているので、今後も継続していきたい。最後に、要対協への繋ぎについて、この事業を利用しているのは要対協のケースの家庭が中心となっている。今後も要対協と連携して、この事業をうまく活用して対応していきたい。

金川会長 方針を聞かせてもらって納得できた。人口減によるピークアウトと言われており、学童保育施設や高齢者施設を闇雲に増やしていくわけにもいかない。できる限りの資源で工夫してやってもらえたらと思うので、その辺りをぜひお願いしたい。

森岡委員 学童保育の待機児童について気になることがある。学童保育は低学年の需要が多くて、高学年になると家で留守番できるということで、人数が減っていく。低学年が優先して利用するので、以前自分の学童保育で待機児童がいたときも高学年だったが、この報告に出ている待機児童がもし低学年ならかなり切実な問題だと思ったので、内訳が分かるなら教えてほしい。

事務局 直近の正確な数字は持ち合わせていないが、低学年1・2・3年生が待機児童として出ているわけではない。低学年から優先的に受け入れしているので、高学年で待機児童が発生している。可能であれば1年生から6年生まで受け入れたいが、特に田中小学校の学童保育ではなかなか高学年まで受け入れできない状況である。

金川会長 他に資料Bに関して質問等ないか。なければ、議題2に入っていきたい。第3期紀の川市子ども・子育て支援事業計画について、資料C「事業計画策定スケジュール」と資料D「子ども・子育て支援事業計画骨子案」について、説明をお願いしたい。

＜議題（２）第３期紀の川市子ども・子育て支援事業計画について、策定スケジュール及び骨子案について、事務局より説明＞

金川会長 確認いただき、質問や意見ををお願いしたい。特に素案を作っていくので、第３章の課題のまとめや方向性について意見いただきたい。お気づきの点はあるか。

改めてこの資料を見せてもらって、少し気になったことがある。まずは 19 ページ、小中学校で長期欠席や不登校の子どもが増えている点。人数がかなり増えているので、どのように対処していくのが今後の課題である。個人的な見解を言わせてもらおうと、嫌だと思っている子どもを無理やり学校に行かせるのは本末転倒だと思うので、こういった状況であっても学習や経験のチャンスをいかに失わないようにきちんと個別にフォローされているかを重視すべきである。そういった視点で、ぜひ検討してほしい。

もう一つ気になっているのが、36 ページの子育て世代の相対的貧困率。紀の川市は全国や和歌山県と比べると相対的貧困率は低いようだが、実は前回と比べると貧困率は上がっている。そういった意味では、経済的な支援であるとか、様々な側面の支援が必要とは思いますが、特に貧困・生活困窮者層に関しては、体験の支援が必要で、よく体験格差と言われているが、習い事や文化体験が欠けているという結果が出ている。特に世代間での貧困の連鎖を防ぐ意味では、学習支援・居場所支援が大きな効果をあげている。今回は計画に貧困対策を入れるということなので、そういった視点も重視していただければ良いと思う。

他に意見あるか。

森岡委員 45 ページ、子育て家庭にやさしい生活環境の整備に関して、「子どもが遊べるような大きな公園・施設や居場所の整備などを希望する声が多くなっています」ということで、方向性として「子どもが安心して外出し、遊べる公園等の管理・整備を引き続き実施していくことが重要です」と書かれているが、公園以外にもそういう場所の整備を何か具体的に考えているのか聞きたい。

以前のアンケートでも書いたが、もっと魅力的な図書館を作ってほしい。有田川町にあるアレックや海南市にあるノビノスのような、親子が充実した体験ができるような図書館があったらすごく良いと思う。紀の川市では、以前は各地域に小さな図書館があったが、今は２カ所しかない。そういうことに関してもどのように考えているか聞きたい。

事務局 複数の部署に関わる質問なので、明確な回答はできないが、まず子どもたちの居場所として、紀の川市でも公園の整備等は順次進めていて、今後も各部署がそれぞれの視点で、公園等の整備を検討していくことになると思う。

子どもの居場所づくりに関しては、こども課でも重要な施策として捉えていて、不登校など支援が必要な子どもが増えているので、そういった子どもの居場所を作るということで、今年度から試験的に居場所づくり事業を実施している。次の計画を進めていく中で、居場所づくりを重要な課題として検討していきたいと考えている。

図書館については、部署が違うので回答が難しいが、整備したうえで2カ所になっていて、その他の地域では移動図書館が回っている。担当課において図書館が充実していけるようにいろいろ考えていると思うので、理解いただきたい。

また、ニーズ調査等でいただいた意見等については、関係部署に共有しているので、市として今後検討していきたい。

森岡委員 不登校の居場所についても、粉河の「はぐくみ教室」は知っているが、他に行けるような居場所がないと気になっていたのも、そちらについてもお願いしたい。

真砂委員 「子どもたちに居場所づくりを」という大きな目標は本当に素晴らしいと思うが、先ほども意見にあったように、紀の川市に子どもの居場所がどれだけあるか。紀の川市が合併したときや子ども・子育て会議が始まったときにアンケートがあって、子どもが遊べる大きな公園がほしいなど、子どもの居場所についての意見がたくさん出ていた。かれこれもう10年以上経っているが、どのように進展してきたかが非常に気かりである。

図書館についても、紀の川市の周辺市町村では、図書館自体のイメージが情報センターや交流センターという概念で、欧米的な図書館づくりが始まっているが、紀の川市は少し遅れをとっている印象である。また、2カ所になったことで子どもの利用を制限してしまっている。図書館として2カ所しかないが、公民館の図書室を利用するか、学校の図書室を充実させて一般に開放するか、そういう取組をもう少し進めていていただきたい。

さきほど金川会長が言われた、貧困家庭の子どもの体験を充実させるということについて、子どもの頃の体験は目に見えないが大人になって

から非常に影響すると思うので、その体験を充実させる具体的な施策が各部署から上がってくることを希望する。図書館がすぐ近くになし、博物館も美術館も大きな公園もない。紀の川市の子どもたちは都会の子どもたちと比べて体験が乏しいと言える。子どもたちが成長して都会に出たときに、都会で育っている子どもたちは身近に文化体験していることに気付くことになる。だからそういう差を埋めるような対策を進めていただきたい。

これからの5年間の計画にあたって、過去5年間はコロナ禍で、時代が大きく変化している中で、その変化にどう対応していくのか。特に小さな子どもがコロナ禍ですっとマスクを付けていることが言語力や発達に影響するのではないかという見解があったと思うが、実際にどう影響が出てきているのか、それに対してどう対処していくのかというところ。また、高度情報社会になり、小中学校ではタブレット1人1台となっているが、情報化の良い面と悪い面をしっかりと計画に落とし込むべきと思う。良い面では、不登校の子どもたちをオンラインで繋げて何か支援できるだろうし、悪い面ではゲーム依存、SNS依存が子どもたちの孤独やいじめ問題と結びついていると思うので、そういう部分を今後紀の川市としてどう対処していくのか心配している。

金川会長 計画の方針全般に関わることなので、次の施策を含め検討してもらえたらと思う。

他にお気づきの点あるか。

大亦委員 今、子どもが1歳と3歳で、コロナ禍での子育てが当たり前だったので、コロナ禍から復活しつつあると、今すごく実感している。保育所でも、元の生活に移行しようとしているのを強く感じている。

ただ、親として、ママ友や地域との繋がりがって言われたら難しい。私は和歌山へ帰ってきたUターン組で、大阪で働いていたからこういうことができたというのがありつつ、和歌山へ帰って来たからこそこういう良いことがあったという思いが両立している。

先ほどからの体験についてですが、和歌山、紀の川市という地域性を生かした体験を考えていたら良いと思う。都会ではできない体験がたくさんある。私も小学校時代に田植え体験とかさせてもらったので、そういう機会を行政で考えてほしい。紀の川市は「果物の町」という印象を強く打ち出しているの、地元農家と協力するような子育て施策を行政に担ってもらいたい。

私個人としては、子どもを和歌山っ子として育てたいという思いがあるが、周りに農家が減ってきていて、身近に農業体験することはなかなか難しい。孤立や核家族化が進んでいるという話があったが、そういう状況だからこそ地域とどう繋がっていくかを、市や県に担っていただけたらありがたい。

子どもを中心としたイベントをいっぱいやってもらえたら、そこで親同士が顔を合わせて繋がって、地域とも繋がるきっかけになり、すごくありがたい。LINEなどSNSを活用して広報してもらえたら、1人で子育てしている身としては、絶対行きたいと思う。既存の図書館等を使って居場所づくりを進めていってもらえたら、既存の施設の利用にも繋がっていくと思う。SNSを上手に使いながら、孤立している子育て世帯を地域に繋げていくような取組をしてもらえたらありがたい。

金川会長 やはり今実際に子育て経験している立場での発言は重要である。既存の施設を使って、紀の川市ならではの体験、自然体験を含めて、そういう提案を参考にしていきたい。

他に意見がなければ議題2を終了して、その他に移るが、委員の皆さんから順番に感想など意見をお願いしたい。

藤田委員 皆さんの意見を聞いて、大変勉強になった。今回いろいろ読ませていただいて、また話を聞かせてもらって、それをどのように今後計画にしていくかということが重要である。

やはり基本目標にある6つの部分は非常に大事である。この6つの基本目標をもとに、第3期計画を作ってもらえると期待している。

森岡委員 私事ですが、この場を借りて、今、私たちの学童保育施設が置かれている状況について話したい。

～現在進行中の移転計画の内容等を説明～

紀の川市の今回の子ども・子育て支援事業計画では、基本理念として「次代を担う社会の宝である子どもたちの権利と利益が最大限尊重され、子どもたちが健やかに育つことが市民すべての願いであること」を掲げている。このような素晴らしい考えのもとに、子ども・子育て支援事業計画を進めている紀の川市が、なぜ今回のような、子どもにとって安全性や快適性が劣る移転を進めようとしているのか不思議である。もっと子どもたちの側に立って、子どもたちや保護者の声を聞いて、計画を進めてほしい。

金川会長 いろいろ話はしてもらっていると思うが、やはり対話が必要である。100%満点の移転計画はなかなか出ることはないので、保護者、関係者、行政が十分な対話をして最終的に納得感を得られることが必要だと思う。森岡委員の意見は真摯に受け止めたい。

林委員 初めてこの会議に参加させてもらった。いろいろな立場の方が、子どもを中心に考えて意見されているのを聞いて、とてもありがたいと思った。私も保育士を30年以上していて、保育所の立場もある。昔とは違って、今は保育の質の向上ということで、子ども一人一人に対応する保育が要求される。全員に同じことをさせるのではなく、一人一人の気持ちを尊重して寄り添う保育というのを、日々保育士たちと話し合い共有しているが、やはりそれをしようとすると、人手がたくさん必要になってくる。みんなの気持ちに寄り添いたいとは思っているが、ニーズに対して葛藤する日々を送っている。

保育の質の向上、延長保育の利用増加、こども誰でも通園制度の実施。その他にも、アンケートを見ると保護者のニーズがたくさんある。保育所としても利用者のニーズにできるだけ対応したいとは思っているが、そのために受け皿となる保育士の人員や保育施設の整備面が追いついていない。ニーズに応えられる体制をお願いしたい。

清原委員 林委員も言われたとおり、保育士不足は本当に厳しい。そんな状況でも保育は続けていかなければいけないので、子どもたちにとって何が大事かというのを保育園でも考えている。うちの保育園では、5歳児だけクラブ活動を行っている。クラブは5つ、文科系も体育系もあって、子どもたちが自由に選んで、月1回活動している。卒園後の学校生活に繋がっていくことが目標である。小学校や中学校に行ってもクラブ活動をしなかったり、ゲームで遊んでいたりが多いたか、ボールを投げるのもうまくできない子どもがいて聞くので、それをなんとか保育園の遊びの中で教えていければと思っている。大きなことはできないが、サッカーや野球、書道などいろいろな経験をさせている。基本的には保育士が講師となるが、外部からもボランティアで教えてもらっている。子どもたちが体を動かして楽しめる活動が増えてくると、もっと生き生きするのではないかとと思っている。

困窮世帯ということでは、サッカーを習いたいけど習えない、どこかに行きたいけど行けないという子どももいる。保育園でみんなと一緒にやって楽しいと思った経験があれば、大きくなったときに思い出してま

たやりたいという気持ちになると思うので、今後も進めていきたい。

また何か企画があったら、保育園の方にも教えてもらいたい。

寺田委員 今回のアンケートを見たり、今日の会議での話を聞かせてもらったりする中で、子どもや子育て世帯の需要を知ることができた。勤務する幼稚園でも、夏休み中に4日間小学生が参加できる学童保育を実施することになっているが、募集するとすぐに埋まってしまう状況で、やはり需要が高いと感じている。やはり共働きが増えていて、数日間でも預かってもらえるとありがたいという声を保護者からよく聞く。普段の保育以外にも、こうして子育ての応援ができるのは良いことだと思っている。

いろいろな意見が聞けるこの会やアンケート結果を通してリアルな声を知ることができた。引き続き参加していく中で、私自身も勉強していきたい。

藤井委員 先ほど各委員から質問があった件について、教育部として現状を報告させてもらう。いじめ・不登校の未然防止、早期発見、早期対応ということで、令和6年度から教育相談員を2名増員して対応している。また、先ほど粉河のほほえみ教室の話が出ていたが、貴志川にも同様の教室がある。児童生徒が望めばオンラインで授業を受けることができる。

図書館については、司書が親子で参加できる様々なイベント考え開催しており、それをSNSで情報発信しているので、参加してもらえたらありがたい。児童・生徒がタブレットを使って図書館や学校の図書室の蔵書状況を検索したり、借りたり、返したりできる。

各担当部署においていろいろな状況を考えながらできる限りの対応をしているので、今後とも協力をお願いしたい。

沖殿委員 毎回この会議に出席するたびに感じるが、今日もたくさんの資料を見せてもらって勉強になった。

児童発達支援センターは、発達につまづきのある子どもたちが通っているところで、皆さんの話にもあったが、保育士不足はどこも同じで、毎日なんとかやりくりしている状況である。

先ほども話題になっていた図書館のことだが、園に来る母親から、ほぼ毎週日曜日に父親の車で海南のノビノスへ行ってきたと聞く。このような気兼ねなく行ける図書館が近くにあれば平日でも利用できるのと思う。やはり子どもたちがじっと静かにしていられなかったり、つい騒いでしまったりするので、母親も周りを気にしてもどかしい思いをし

ている。こういう子どもたちも楽しめる場所、図書館に限らず雨でもいけるような公園とかがあればという声をよく聞く。今までも努力してくれているのは理解したうえで要望となってしまうが、未来の子どもたちのために少しずつ実現できるような計画を立ててもらえるとうれしい。

大亦委員 保護者としてさきほど発言させてもらったが、やはり保育や子育てにはいろいろな人の立場があって、実現できることがあれば、難しいこともあるというのがすごく実感した会議だった。我々保護者も、自宅で精一杯みたいな状況ではあるものの、任せきりにするのではなく、一市民として、地域の一員として、できることを可能な範囲で探してやっていく努力も必要だと思った。保育所で子どもをみてもらうだけでも十分助かっているが、これから小学校、中学校と進んで大人になっていくことを考えたら、子ども時代は楽しかったと思ってもらえるように、我々大人が力を合わせていくことが大事であると感じた。

古田委員 保護者としての要望になってしまうが、学童保育でも、幼稚園や保育園の延長保育のように、親の就業時間に関係なく、月に何回か行かせてもらえたら、親が助かるということだけじゃなくて、子どもたちの居場所を増やすという意味でもありがたい。子どもたちだけで公園にも行くが、大人の目がないと危ないときもあるので、他にも子どもたちが行ける場所があれば良いと思う。毎日ではなく何かイベントや体験ができるときだけでも参加できるような形にしてもらえるとありがたい。

子どもが減少している状況で施設を増やすのは無理だろうし、待機児童も出ている中でなかなか難しいとは思いますが、定員に余裕があるときだけでもそういう機会があればうれしい。

真砂委員 今回のアンケート結果で、社会の現状や課題が浮き彫りになったと思う。また、計画期間である5年間は長いようであつという間と感じる。5年かけてじっくり積み上げていける目標と、すぐ対処が必要な緊急課題があると思うので、そこを明確に分けてもらったら分かりやすい計画になると思う。

皆さんの話を聞いて、子どもが育たないと紀の川市の将来に関わる切実な問題であるが、学童保育や保育所の環境や施設にしても、子育て世帯への支援にしても、とにかくお金がかかるという印象を持っている。ただ、現状では子どもたちのために使われているお金はまだまだ少ないと感じる。予算取りもしっかりお願いしたい。

長岡委員 各保育所や学校の先生方がものすごく苦勞しながら頑張っていると、よく耳にするので、市としてももう少し各教育機関をフォローアップしてもらいたい。

嶋田委員 多様な意見、貴重な意見をいただいた。
市には予算という大前提がある。これを有効に活用するのが私たちの責任だが、それ以上に市民の希望が多いという部分がある。その声をどう反映できるのか、これからの計画においてできる限り取り組んでいきたい。

今回の計画でも課題となるがやはり人材の確保、これが一番大事である。子ども・子育て、高齢福祉、障害福祉、社会福祉と、福祉分野すべての計画に参画しているが、どの計画においても人材不足が問題になる。この部分をいかに改善していくかが大きな課題である。

この計画にも記載しているように、今後人材確保を含めて様々な施策を進めていきたいと思っているので、皆さんの協力と理解をお願いしたい。

6. その他

事務局から次回の会議日程について、候補日を伝え、下記のとおり決定する。

第21回紀の川市子ども・子育て会議

日 時	令和6年10月18日（金）午前10時から
場 所	紀の川市役所 2階 市民協働スペース

7. 閉会